

東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会記録

平成30年4月17日(火)午前9時49分～午前11時53分(9階908会議室)

○出席委員(11名)

委員長	高木 克尚	副委員長	尾形 武
委員	沢井 和宏	委員	二階堂 武文
委員	鈴木 正実	委員	根本 雅昭
委員	小松 良行	委員	村山 国子
委員	小野 京子	委員	山岸 清
委員	渡辺 敏彦		

○欠席委員(なし)

○議題

- 1 参考人招致
福島県企画調整部文化スポーツ局
次 長 金子 市夫 氏
オリンピック・パラリンピック推進室 主幹 鈴木 淳 氏
- 2 参考人招致に対する意見開陳
- 3 その他

午前9時49分 開 議

(高木克尚委員長) ただいまより東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を開会いたします。

本日は、参考人招致を行います。この後10時から福島県企画調整部文化スポーツ局次長、金子市夫様、同じく文化スポーツ局オリンピック・パラリンピック推進室主幹、鈴木淳様、お二人をお迎えをし、30分ほど意見開陳をいただいた後に質疑を60分ほど行うことになっておりますので、よろしくお願い申し上げます。

なお、念のため、参考人招致にあたっての留意事項をお伝えいたします。

書記より、お願いします。

(書記) では、皆様、お手元、参考人招致実施要領あると思いますが、一番最後、4ページ、10番というところをごらんいただければと思います。

では、参考人招致実施にあたっての留意点でございます。まず、1番でございますが、参考人の方につきましては、あらかじめ質問事項を決めて依頼させていただいてございます。その質問事項について、意見を準備して出席いただいておりますので、その質問事項以外の事項について意見を求めた場合、委員長のほうから委員の発言を制止する場合もございますので、それにはご了承いただければと思います。ただし、参考人の了承を得られるならば意見を求めることができるものとなってございます。

続きまして、2番でございますが、参考人には、証人と異なりまして、百条調査のような強制力はなく、委員から依頼して出席を求めるものでございますので、参考人の方には礼節を尽くして、追及するような質問はなさないでいただければと思います。

最後に、先ほど委員長のほうからございましたとおり、本日の時間につきましては、意見の開陳が約30分、質疑応答が約60分、全体で1時間30分というお時間を参考人の方からいただいておりますので、スムーズな議事進行にご協力いただきたいと思います。

以上でございます。

(高木克尚委員長) どうぞくれぐれもお言葉遣い、ご注意をいただければ幸いです。

参考人招致にあたって、皆さんから事前に確認等々ございましたらご発言をいただきたいと思いますが、よろしいですね。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、参考人招致開始まで暫時休憩いたします。

午前9時51分 休 憩

午前9時58分 再 開

(高木克尚委員長) 委員会を再開いたします。

本日の委員会は、本特別委員会の調査の一環として、参考人の方にご意見を伺うため、本日、福島県企画調整部文化スポーツ局次長、金子市夫様、福島県企画調整部文化スポーツ局オリンピック・パラリンピック推進室主幹、鈴木淳様にご出席をいただきました。お二人におかれましては、大変お忙しい中、本特別委員会のためにご出席をいただき、誠にありがとうございます。委員会を代表して心から御礼を申し上げますとともに、忌憚のないご意見をお聞かせいただきますようお願いいたします。

本日の進め方といたしまして、まず30分程度の時間で参考人の皆様からご説明、ご意見をお述べいただき、その後60分の時間内で質疑応答という形で進めてまいります。

なお、資料のご提供があり、各委員のお手元に配付しておきましたので、ごらんください。

それでは、早速、お願いをしておりました復興推進ふくしまアクションプランについて並びに野球・ソフトボール競技開催にかかる県の取り組みについて並びにホストタウン・事前合宿誘致の取り組

み状況について、以上の項目についてご説明、ご意見をお伺いしたいと思います。

それでは、参考人の方、ご発言をお願いいたします。

(金子市夫参考人) 本日は、お招きいただきまして、そしてお時間をいただきましたこと、誠にありがとうございます。私からは、東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会より意見を求められております復興推進アクションプランについて、そして野球、ソフトボール競技開催に係る県の取り組みについて、そしてホストタウン、事前合宿誘致の取り組みについて説明をさせていただきます。

それでは、本日お配りいたしましたこちらの資料に基づきましてご説明申し上げます。1ページをごらんいただきたいと思います。初めに、2020オリンピック・パラリンピック競技大会復興推進アクションプランのイメージについてご説明申し上げます。県では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、国内外の感謝の気持ちを伝えるとともに、関連施策について全庁的な展開はもとより、市町村や民間企業などの県内関係機関、団体とともにオール福島で取り組み、大会組織委員会、関係省庁、東京都、全国自治体、JOC、JPC、オリンピック・パラリンピックスポンサー企業等との交流拡大を通しまして、共感の輪を広げ、復興のさらなる加速化につなげていくこととしております。さらに、東京大会に多くの県民がかかわることなどにより、福島の誇りを醸成させるとともに、2020年以降を見据えた取り組みとして発展させ、そして未来へつなげ、世界に向けた新しい福島のイメージをつくり上げていくことを目的として、平成28年2月に2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会復興推進ふくしまアクションプランを作成したところでございます。このアクションプランは、交流の拡大を通して、前に進むふくしまの「魅力」を全世界に伝え、ふくしまの「誇り」を「未来」につなげよう！を基本コンセプトとし、前に進むふくしまの「魅力」発信、ふくしまの「誇り」の醸成、「未来」のふくしまの創造、この3つを基本目標に、県民とともに官民連携して関連施策を展開していくこととしております。昨年7月には、市町村やスポーツ文化関係団体をはじめ、商工観光、農林水産など関係144団体から成る東京2020オリンピック・パラリンピック復興ふくしま推進会議を設立いたしまして、以降、民間企業や大学等と連携した機運醸成など、未来の福島の創造に向けて取り組みを推進してきたところでございます。

2ページをごらんいただきたいと思います。東京オリンピック・パラリンピック復興推進ふくしまアクションプランの主な取り組みについてご説明申し上げます。基本目標1、前に進むふくしまの「魅力」発信から基本目標3、「未来」のふくしまの創造のそれぞれのごとにテーマを設けまして、2020年に向け各種取り組みを展開しながら、競技の開催準備や魅力発信、機運醸成等を図っていくとともに、それらを通して、復興のさらなる加速化をつなげていくこととしております。また、それらの取り組みが一過性に終わらず、レガシーとしてオリンピック後の福島の強みとなるよう継続、強化してまいります。

3ページ目をごらんいただきたいと思います。2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会復

興推進ふくしまアクションプランの展開についてご説明申し上げます。昨年3月のIOC理事会におきまして野球、ソフトボール競技の本県開催が承認されて以降、交流をキーワードとした多様な主体が連携するふくしま大交流プロジェクトを展開しております。このプロジェクトは、さまざまな主体との交流により、新たな価値を生み出し、2020年以降の新しい福島をつくる基盤を築いていくことを目的とするものであり、昨年度は競技開催都市の縁による本県と横浜市の子供たちの野球交流や経済界の協力による県産品販売を通じた民間交流、民俗芸能による文化交流やレガシー創出に向けた学生によるアイデアコンテストなど、交流を通じ、機運を高めたところでございます。

4ページをごらんいただきたいと思います。野球、ソフトボール競技開催に係る県の取り組みについてご説明申し上げます。平成28年8月に、左ですけれども、追加種目が正式決定された後、関係者へ野球、ソフトボール競技の本県開催を要望いたしまして、国際競技団体への説明等を実施してきたところでございます。その結果、昨年3月のIOC理事会におきまして野球、ソフトボール競技の県内開催が承認され、東京オリンピックが福島県で開催されることが正式に決定いたしました。その後、開催準備や機運醸成等にオール福島で取り組む復興ふくしま推進会議、こちらを設立しまして、官民連携によるオリンピック・パラリンピック関連事業に取り組んでいるところでございます。機運醸成に向けましては、組織委員会や東京都、競技団体等と連携し、代表合宿の誘致や県外PR、学生による交流イベント等を展開してまいりまして、競技開催に向けては、会場となります県営あづま球場の改修や輸送ルートの検討を行っているところでございます。

5ページをごらんいただきたいと思います。県営あづま球場の改修についてご説明申し上げます。県営あづま球場の改修につきましては、組織委員会やWBSC、世界野球ソフトボール連盟でございまして、などの要望を踏まえまして、またオリンピック後に球場を利用される方々の利便性や安全性の向上、維持管理等を考慮し、改修を進めることといたしたところでございます。改修内容は、機能性向上の視点から、グラウンドや室内練習場の人工芝化、そして外野フェンスの衝撃吸収材改修など、老朽化対策の視点からは、ロッカールームなどの運営室、トイレ、シャワー室等の改修、バリアフリーの視点からは、車椅子用昇降設備、車椅子用の席及び多目的トイレの増設等を計画しているところでございます。改修スケジュールにつきましては、平成30年度、今年度及び来年度、平成31年度の2カ年の球場のオフシーズンを中心としまして、利用者の影響が最小限となる期間で改修工事を予定しております。

続きまして、6ページをごらんいただきたいと思います。輸送ルートの検討状況についてご説明申し上げます。輸送ルートにつきましては、去る3月20日に組織委員会と共同で福島県輸送連絡調整会議を開催いたしまして、あづま球場まで選手をはじめとした大会関係者を運ぶ関係者輸送ルート案、それと観客利用想定駅、これを福島駅と想定しております、から会場まで運ぶ観客シャトルバスルート案、こちらについて検討しているところでございます。なお、関係者輸送ルート案、観客シャトルバスルート案、観客利用想定駅につきましては現在検討中でありまして、今後変更の可能性もござ

います。また、パーク・アンド・バスライドの実施の可能性については、現在検討しているところがございます。今後2つのルート案及び観客利用想定駅をもとに、さまざまな関係機関の皆様とともに具体的な検討をさらに進めてまいりたいと考えております。

7ページをごらんいただきたいと思えます。聖火リレーについてご説明申し上げます。聖火リレーにつきましては、先日、組織委員会等から成る東京オリンピック・パラリンピック調整会議におきまして、本県を含めた被災県が3日間、総日数が114日に移動日を加えた日数となることが決定されたところがございます。聖火リレーは、1つの市町村内でリレーを行い、終了後、次の市町村へ車両移動を繰り返しまして、1日のリレーの最終市町村では聖火到着を祝うイベント、いわゆるセレブレーション、こちらを実施いたします。1日当たり最大100名の聖火ランナーが走りまして、走行距離と時間は1名当たり約200メートル、2分間ということとなっております。セレブレーション会場におきましては、自治体や聖火リレースポンサーがそれぞれ演出を行いまして、最後に聖火ランナーが到着し、聖火皿に点火して、1日のリレーが終了ということになります。県といたしましては、今後組織委員会が定めるルート選定基準等をもとに実行委員会を設置いたしまして、ルート案等の検討を進めてまいりたいと思えます。聖火リレーは、県民の皆さんがまさしく直接オリンピックに参加できる貴重な機会でございますので、数多くの県民や自治体にかかわっていただきたいと考えております。

8ページをごらんいただきたいと思えます。今年度、平成30年度の東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業の推進についてご説明を申し上げます。今後の県の取り組みにつきましては、大会の開催準備は、あづま球場の改修とともに、本日の民友新聞ほかで1面に載りました、テストイベントといたしまして日米対抗ソフトボール、こちらを23日に開催することとしております。大会後には女子ソフトボール日本トップ代表の合宿があづま球場で実施を予定しております。オリンピック・パラリンピックへの県民参加に向けましては、今後、聖火リレールート案、こちらの選定やボランティアの募集、こちらを開始することとしております。また、オリンピック・パラリンピック教育につきましましては、昨年度は福島市さんに大変お世話になりました。こちらを全県的に広げまして、昨年度実施しました福島市での成果を踏まえまして、県全体に広く展開することとしております。子供たちをはじめとしました県民と参加国やトップアスリートとの交流を促進するために、引き続き市町村や競技団体と連携し、ホストタウンを推進するとともに、障害者スポーツ、こちらを含めた代表合宿の誘致に取り組んでいく考えでございます。また、県産農林水産物や県産水素、こちらのオリンピック・パラリンピックでの活用に向けて、GAP認証、こちらの取得促進、再エネ由来水素の利活用に向けた研究開発を進めることとしております。これらの取り組みを進めていくと同時に、オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向けて、新たな復興ステージへ向かう“ふくしま”を目指しまして、復興のさらなる加速化に取り組んでまいります。福島市におきましては、現在も代表合宿やオリパラ教育、ホストタウンの推進等に連携して取り組んでいただいているところございまして、今後、輸送や医療、セキュリティーなどの組織委員会等との調整やボランティアの募集などを具体化し

てきた際には、改めて連携協力をお願いしたいと考えております。

9ページをごらんいただきたいと思います。福島県内のホストタウンの取り組み状況についてご説明申し上げます。県内市町村のホストタウンにつきましては、福島市をはじめ、会津若松市がタイ、郡山市がオランダ、いわき市がサモア、猪苗代がガーナ、それぞれゆかりがあるところを相手として登録しているところでございます。いずれの市町でも相手国との相互交流事業や住民向けの相手国文化の体験イベントなどを実施または予定しておりまして、ホストタウンの交流が進んでいるところでございます。このうち会津若松市ではボクシング競技のタイ代表チーム、いわき市ではラグビー競技のサモア代表チーム、こちらの事前合宿について合意をしたところでございまして、猪苗代町におきましては、種目未定ではございますが、ガーナ代表チームの事前合宿については合意をしたところでございます。

また、震災後、これまで支援していただきました海外の国や地域に復興した姿を見せつつ、住民との交流を行う、復興『ありがとう』ホストタウンという制度が新たにできまして、こちらとしまして、南相馬市がジブチ等、本宮市はイギリス、北塩原村は台湾、飯舘村はラオスを相手国として登録され、それぞれ相互交流に向けて取り組んでいるところでございます。

10ページをごらんいただきたいと思います。平成30年度におきまして、東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向け、活用できる支援制度についてご説明申し上げます。ホストタウンに関する取り組みにつきましては、対象経費のうち一般財源合計額の2分の1、こちらが特別交付税措置、また施設改修にあたっても有利な起債がございます。その上で、県では事前キャンプ誘致活動等に対する財政支援を行っております。ホストタウンに限らず、各種代表合宿等の誘致、こちらも対象としておりまして、福島市さんにおいても活用していただいているところでございます。このほかにも東京大会に向けてさまざまな支援を用意しておりますので、参考としていただければと思います。また、国と連携し、大使館や国際競技団体等へのPR活動等につきまして取り組んでおりまして、昨年度は、うちの県職員でございますが、南相馬のジブチ共和国で行いました空手の交流にジブチまで職員が同行するなど、現地での円滑な交流への支援に努めたところでございまして、今後とも市町村におけるホストタウンの取り組みが広がるよう、関係機関と連携し、積極的に支援してまいります。

以上、東京オリンピック・パラリンピックに向けた県の取り組み等についてご説明申し上げます。何とぞよろしくお願いたします。

(高木克尚委員長) ありがとうございます。

以上で参考人からのご意見の開陳等は終わりました。

次に、質疑応答を行います。質疑応答は60分間の範囲内で行います。

それでは、ご質疑のある方はお述べください。

(鈴木正実委員) ご説明ありがとうございます。大変わかりやすい説明で。

まず、基本的なところで、県文化スポーツ局オリンピック・パラリンピック推進室の体制について

ちょっと教えていただきたいのですが。

(金子市夫参考人) 今年度、昨年度まではスポーツ課内に一係として、課長制度にてオリンピック・パラリンピック、スポーツ課長という担当に7名だったのですか、程度の体制でやっていたのですが、ことしは10名の体制に規模を拡大いたしまして、オリンピック・パラリンピック推進室をスポーツ課から、課内室ではございますけれども、分けまして、独立させて、体制強化を図ったところでございます。室長、隣にいます主幹、主任主査2名、あと担当係員というような体制で強化を図っております。

(鈴木正実委員) 常時10名の体制ということで、各分野、いろんな形で分けて取り組まれていると思うのですが、例えば事前合宿担当とか、何かそういう分け方みたいな細かい体制というか、その仕組みをちょっとご説明いただきたい。

(金子市夫参考人) 基本的には2つございます。会場運営、あづま球場の運営をいかにどうするかという体制の島と、あとは機運醸成、全県的にこの大交流プロジェクトをどう進めて、推し進めて、一体化して福島県で盛り上げていくか、この2体制をもとに基本的に今進めているところでございます。

(鈴木正実委員) 今の体制の関係で、最後に各分野との連携というのですか、例えば農業関係や農産物の関係であれば農政部だとか、あるいは観光であれば商工観光だとかという、そういう横の連携が必要になっていると思うのですが、そこでの連絡調整及び組織の中での会議のあり方であるとか、そういうことはどういうふうになっているのでしょうか。

(金子市夫参考人) 私を座長としまして、昨年度からワーキンググループをつくりまして、例えば観光交流課、県産品戦略課、あと警察本部、あと教育庁の健康課とか、あとそれぞれ本体とします企画調整課、広報課、連携をいたしまして、2週間に1編ほどのワーキンググループをとっておりまして、その都度、いわゆるそれぞれの進行管理、そういったものをやらせていただきまして、庁内での横の連携を図りまして、大事なものを決めるときにはそれぞれ各課長さんに集まっております。プロジェクトチームみたいに、それで一番上が政策調整会議のほうの判断をいただきまして、各部局長さんが行った、の判断をいただいて、ことしはこれでいきたいと思いますというような形の推進体制をとっております。

(山岸 清委員) どうもありがとうございました。

福島でオリンピックの野球は2チームが来る、こう考えればいいのですか。

(金子市夫参考人) そういったものを含めまして、現在組織委員会とI O Cのほうで調整をしているところでございまして、なかなかそこが決まらないと我々も、逆に言えば、どういった組み方をするのだというのができませんので、決まり次第、速やかに我々も動きたいと思っております。

(山岸 清委員) というのは、あづま球場は人工芝になって、必ず試合前にそれぞれのチームが練習されると思うのですが、その前に1週間くらい前に来て、やっぱり野球も毎日練習していないと大変だから、例えば福島で来て合宿というか、試合に向けて練習するには、福島で硬式球場だと信夫ヶ丘

と飯坂球場があるから、そこらの準備も市としても考えておかなければならないのかなと、こう思ったものですから。ただ、それをやると、両方人工芝にしてくれと言われると頭痛くなってしまい、練習だから、土のグラウンドで。

そして、もう一つ、ソフトボールも結局あづま球場で、フェンスを回してソフトボールのサイズに合わせるということですね。

(金子市夫参考人) まさしく山岸委員のおっしゃるとおりでございます。同じ、同一の会場でソフトボールもやる、野球もやる、いわゆるピッチャーマウンドは野球のときは盛る、ソフトのときは削る、そういったような感じになると思います。

あと、福島市さんにもオリパラ推進室ございますので、そちらとの横の連携も綿密にやっていきたいと考えております。

(渡辺敏彦委員) 細かい話なのですが、さっき聖火リレーのスポンサーという話ありましたが、これは全国レベルの話なのか、多分ある程度の協賛か何かしたところの宣伝か何かつけて走ったりするのではないかなというふうに思っているのですが、これ地元企業とか何かというのが入っているのですか、それとも全国レベルの企業なのですか。

(金子市夫参考人) スポンサーは、全国レベルの企業になりまして、例えばコカ・コーラさんとか、ああいったものがすごくスポンサーでもいわゆる立場が強いといいますか、強くて、なかなかそこら辺との調整と、あとオリンピックのほうの憲章で一番厳しいのが、いわゆる便乗商法はだめですよということをすごく言われておりまして、我々としては盛り上げたいのですけれども、商売になると便乗になってしまう。商売ということであれば便乗になってしまうと。ただ、先週ですけれども、例えばコマーシャルでいいますと、ワールドワイドオリンピックパートナーとしてコカ・コーラ、トヨタ、オメガ、これ多分ホームページのほうで、I O Cのホームページのほうで見れると思いますけれども、最近目立ってきました味の素のコマーシャルでもオリパラのマークが入っていたりといったところで、県内でいいますとアサヒビールが、これがオフィシャルパートナーというのですか。一番お金をいっぱい出しているところと少ないところと、億単位とか、そういった単位の話でございますので、こちらのいわゆる財源がすごく運営で大きいというところで、こちらのものがすごく出てくると、前面に出てくるというふうにご認識いただきたいと思います。

(渡辺敏彦委員) もう一点ですが、支援制度、これ10ページの。ぱっと見ますと、今までの支援、いろんな数の支援が入っていますよね。例えばサポート事業とか入っていますけれども、これは例えばオリンピック・パラリンピックにかかわる事業を民間でやった場合については、今までの感覚のサポート事業よりも優先されて採用になるとかという、何を考えているのですか、これは。これ、オリパラがあるので、専門につくったものではないでしょう。

(鈴木 淳参考人) 多分渡辺委員のおただしの部分につきましては、福島県の地域創生総合支援事業が該当するかと思います。民間団体が行う地域の特性を生かした魅力ある地域づくりにおいて、例

えば英語教育だとか、そういったおもてなし、今後オリンピックが終わっても次につながるような、そういった取り組みをされますというような申し入れがあったものに対して、オリンピックはそういうことで、ことしからサポート事業を優先的に認めるような枠をつくってございます。ただ、募集につきましては、今年度については多分締め切りになっているかと思いますが、また来年度も同じような形で続けたいというふうには考えております。

(渡辺敏彦委員) 昨日かおとといの新聞に、あづま球場で日米ソフトだったけ、やるとなっているのですが、あれ整備は平成30年、平成31年でやってしまうから、そのソフトボールの試合というのがお披露目みたいな感覚で捉えていてよろしいのですか。

(金子市夫参考人) まさしく機運醸成、オリンピックが来るぞ、わくわく感の醸成というのですか、日本の代表とアメリカの代表が、いわゆる露払いというのですか、いわゆる一番……

【「完成して最初にやると」と呼ぶ者あり】

(金子市夫参考人) 済みません。まだ完成はしておりません。オフシーズンに2年に分けて芝生の整備とか、そういった球場の内装、トイレの洋式化とか、そういったものをやっていきますので、まずはとにかくあの場所で日米が戦っていただくということを基本に、やっぱりオリンピックが来るぞという、そういうところの機運醸成を図っていきたいというふうに考えております。

(小野京子委員) ご説明ありがとうございます。

今の日米対抗ソフトボールの開催ということで、前回体協のほうで、皆さん、券買ってください、ソフトボールの審判の方が出たのですけれども、広報はどのようにこの大会のこと、広報ですか、PRというか、そういうものはどのように進められる。

(鈴木 淳参考人) お答えいたします。

今週中か、スポンサーが読売となります。読売のほうから新聞等でPRされるのと、あと現在検討中ではありますが、子供たちに多く見に来ていただきたいという考えがございますので、そういった小学校等、中学校まで広げられるかどうかなのですが、そちら等にまた広報を広げていきたいというような、主催のほうからはそういうふうに話を伺っております。我々のほうとしましても機会のあるごとに、オリンピックの会場を使っていただきますので、機運醸成に向けたPRをホームページとか新聞広告等を使いながら進めていきたいと思っております。それに対しましては、福島市さんと連携してやっていくことでお話しはしています。

(小野京子委員) ボランティア募集と、隣の、8ページの上にかかれているのですけれども、県民の大会関与ということで、市民ができるボランティアってどういうものですか。わかる範囲でお願いいたします。

(鈴木 淳参考人) ボランティアにつきましては、大会にかかわる者として、現在大会ボランティアというのと都市ボランティアの2種類がございます。大会ボランティアにつきましては、大会運営に直接かかわる者として、組織委員会のほうで募集をかけて、面接をされて、実際会場等で活躍し

ていただくこととなっております。都市ボランティアというのが各自治体のほうで、開催自治体等で観光だとか、道案内だとか、そういったおもてなしを中心とした活躍をしていただくこととしておるのですが、大会の範囲というものがまだ現在組織委員会と開催自治体等で調整中でありまして、会場だけが大会なのか、輸送の範囲まで大会なのか、あとは駅周辺の観客が集まるところ、ここも大会なのかといったところがまだ区分分けができておりません。そちらの区分分けができて、自治体の担う部分がはっきりしてきたところで、福島県内どちらでも都市ボランティアというものは置くことが可能なのですが、特に大会とのすみ分けが必要になります福島市さんともその辺連携を密にしながらか、ボランティアの募集について検討を進めていきたいと考えております。

(山岸 清委員) ボランティア、みんな参加してもらえばいいのですが、福島はスイスの国をホストタウンなんていうことでなるのですが、スイスはスイス語なのですか。ほかのまちも大変だな。スイス語って俺、スイスウオッチくらいしか言われないのだ。

(鈴木 淳参考人) ドイツ語とフランス語を使っているというふうに聞いてございますが、ヨーロッパの方々はおよそ英語もご理解されるので、基本英語で多言語化の対応をされれば足りるかなというふうには考えております。

(村山国子委員) どうもありがとうございました。

体制のほうでも2課体制ということで、機運を醸成するというふうに、また基本目標でもそういうふうの方針となっているのですが、アンケート調査なんか見ても、なかなか県民は冷めているのかなと、そういうイメージがあるのです。時間的にはまだあるというのが、2020年ということで、もうちょっと時間はあると思うのですけれども、例えば福島なんかまた会場となるという、あとホストタウン関係のところもちょっとは盛り上がるのかなと思うのですけれども、全体として、県民、機運が高まっていくようにするには具体的にはどういうことを考えていらっしゃるのか。

(金子市夫参考人) 本年度、また推進会議でございますが、144団体集めた推進会議を2年目の7月24日、今回大会2年後になりますので、こちらを大きく、全県的な催しとしては大きくそれをやっていきたい。あと、パラリンピック関係になりますけれども、それぞれバスケットボールのトップクラスの方の合宿とかを既に年間を通じてあっせんというか、ぜひ来てくださいというようなことを申し上げております。あと、一番のやっぱりオリンピックが来るぞというのを大会が身近に感じられるのは、やはり聖火リレーだと思うのです。こちらのほうがことしは一番の盛り上げどころかな。逆に言えば、PRして、どこを走っていただきたいのですかと県民の皆様それぞれお考えになっていただく。あと、浜の15市町村からは、ぜひともルートとして入れてくれというかなり熱い期待、要望がございます。あと、福島市さんのほうでも何か疑似の聖火リレーというようなことでおやりになるなんていうことも伺いしてございまして、徐々にじわじわとはちょっと盛り上がってきたかなというようなこと。あと、1,000日前のときには横浜市に福島、いわき市の少年かな。相馬の子供が中心だったのですけれども、横浜に行って、横浜市の小学生と野球をやりました。今度は、横浜市さんが今度あづま球場で

やるというようなことを500日前にイベントなんかも考えておまして、何はともあれ我々、自分自身が盛り上がっていかないと始まりませんので、でき得る限りのことを万全を尽くして盛り上げていきたいと考えております。

(村山国子委員) 聖火リレーってあったのですが、被災地は3日間ということで、この距離を見ると1日20キロですか。100人で、200メートルで。

(金子市夫参考人) 実質的に走るのは20キロですけども、移動を含めると、大体120キロぐらいになるような換算だというふうにお考えいただければと思います。

(村山国子委員) そうすると、連続ではなくて、途中で移動して、そうすると中通りから会津へ行ったり、浜通りへ行ったりって、そういうことも可能ということに。

(金子市夫参考人) ええ。それで、3日間というのが決まりましたので、我々も担当者が一番今頭を痛めているところがルート、どこから入ってくるのか。例えば茨城から来るのか、宮城から来るのか、それとも栃木から来るのか、新潟から来るのかといういろんなルートの、まずありますので、入り口と出口がわからないとなかなかルート選定はできないので、それなりに我々としましてもシミュレーションは今やっているところでございまして、できるだけ皆様に聖火を見ていただきたいということで、考えながら検討していきたいと考えております。

(村山国子委員) その被災地というのがこの3県なのか、東北という意味ではなくて、被災地3県を言うんでしょうか。

(金子市夫参考人) 復興五輪というのが大きな今回の東京五輪のテーマでございまして、今回の被災地という、この3日間というのは、岩手、宮城、福島ということでございます。

(沢井和宏委員) 聖火リレーに関してなのですけども、1日100人というのは、これは中央の決定なのでしょうけれども、盛り上がりとして、何となくイメージとして100人って少ないのではないかなんていう、結局聖火を持って走るのは1人、一人一人ですよ。でも、何となくイメージとして、そのほかに伴走者みたいな、そういう感じで例えば県でふやしていくというような考えはないのでしょうか。

(鈴木 淳参考人) 聖火リレーにつきましては、先ほど金子のほうからも話がありましたとおり、スポンサーによって運営されるものでして、オリンピックルックというので統一されます。ユニホームとかも全て、あとトーチについても1人1本ということになっておりますので、それについて全てコストがかかりますものですから、独自に県のほうで同じものを購入してということは、組織委員会のほうからはまだそういったことを許可するような話は出ておりませんし、例外として認めるようなことはないのではないかなというふうにとちょっと考えております。

(沢井和宏委員) であればって、イメージとして、本番の聖火リレーはあるにしても、その前にとか、後にとか、そういう聖火リレーに関しての付随したイベントとか、そういうのは考えてはいらっしやらない。

(鈴木 淳参考人) 今回の報道の中でありましたが、復興五輪の象徴としまして、聖火リレーの採火、ギリシャからとってきた採火をまず福島県、宮城県、岩手県の被災3県のほうで展示をされる。これからスタートする火ですよというのをみんなに見ていただいた上で、どちらからスタートになるのかわかりませんが、そちらで、例えば沖縄とかからその採火を持って、点火してスタートするというようなことで、被災地に配慮したイベントを組織委員会のほうでI O Cと調整していただいていると聞いております。ただ、これについては、今後3県に、まだお話をいただいておりますので、具体的な話が来て以降、どちらで展示するというような話し合いになろうかなというふうに思っております。

(山岸 清委員) 東京オリンピックの映像を見ると、伴走者も走っていたのね。でも、あのときはユニホームも一緒だったから、あれだけども、今度はユニホーム違っても、正式な聖火ランナーは1人でも、あと後ろのほうについて歩きたい人は、デモ行進ではないから、何十人とはいかないけれども、20人くらい、小学生でも、中学生でも、一般の人でも、一緒に走りたいという人は、てんで自分の服でもいいし、あるいは県のほうで予算があれば、その分のランニングのパンツくらいは手当てしてやってもいいのかななんて、これはささやかな要望です。何かいろんな、東京オリンピックで私も伴走したのですよなんて、後から有名になったアスリートがいろんな人、言うのね。非常にあれ意義深いなと思ったの。だから、正式な1人の人と同じ服だとコストもかかるから、自由にやってくださいとやれば、よくマラソンなんか、駅伝なんか見ていると、脇の道を一生懸命走っていく子供だの大人の人いるから、やっぱり聖火リレーと一緒に走ったというのはいい思い出だし、オリンピックの機運醸成には一助になると思いますから、こういう要望もあったということをJ O Cのほうにでも伝えてください。

(金子市夫参考人) 大変貴重なご意見。

今の状況を申し上げますと、やっぱり50年前と比べまして、かなりスポンサーの権利が強くなってきたというところで、大変いわゆるセンシティブというのですか、微妙なところがありまして、先ほども言いましたけれども、営利を目的としたものは厳禁ですよというのがすごく強いのです。ただ、行政が全面的に出て、これは営利ではないのですというところはある程度目をつぶろうみたいな、あと今例えば学校内でオリンピックに出る人たちをテレビに映すとだめだよなんてかなり今ニュースになっていますが、すごく50年前とちょっとまた若干時代が変わってきたかなというのはありますけれども、今委員のおっしゃられた要望につきましては、I O Cと組織委員会、そちらのほうに、こういったご意見ありましたということは伝えておきます。

(渡辺敏彦委員) 疑似リレーの話、ありましたが、疑似リレーというのね。村おこしとかまちおこしのために、前の朝ドラで何か立ったよね、ちょこっと。ああいう村おこしとかまちおこしの中でそういったことをやる場合に、オリンピックマーク使わなければ、いろんな制限に。注意しなくてはならない点というのは、どうなのだろうね。ここでやる100人の中のあれでなくて、別にやりますよ、自分でやるから、自由にやっていいのですかという話になると思うのだけれども、多分オリンピックマー

クなんかを入れてしまうと騒ぎになると思うのだけれども、その辺はどういう基準というのかな、何かありますか。注意すべき点か。

(金子市夫参考人) 今一番なのは、まさしく今言っていますとおり、営利を全面的に出すというのが一番厳しいところでございます。あとは言葉自体としての聖火リレー自体も、オリンピックの、IOCの所有権だという言い方をするので、そこら辺は福島市さんとよく調整して、あとまた組織委員会とも調整して、何とかできるようにいきたいなと、そういうふうを考えております。

(鈴木 淳参考人) 今の補足ですが、リレー開催期間中の同じようなイベントというものは、ちょっと厳しいかな。時期をちょっとずらしていただかないと、そのリレーのほうを侵害してしまうというふうに受け取られますと、開催自体を拒否されるおそれがありますので、ちょっと時期をずらしていただくとかというような工夫が必要かと思いますが、この辺については今後組織委員会さんのほうと調整していきたいと思っております。

(小松良行委員) この東京オリパラでもって、福島の復興が進んでいるのだと、そしてこうした被災地であるけれども、全国に、あるいは全世界にさまざまな復興の姿をPRしていきたい。今般は、機運醸成のためのPRとして、例えば郡山駅前にプロ野球選手を呼んで行った。しかし、何か余り、聞くところによると、そんなに人が集まっていたわけでもなくて、どこでどのような活動が今後展開されるのかという、そしてまず最初に県としてのPRキャンペーン、こういったスケジュールとか、特に本市で開催されるスケジュールなどあれば、まず最初にそれを教えていただきたいと思うのですけれども。

(鈴木 淳参考人) 機運醸成につきましては、先ほど金子のほうからも申し上げてございましたが、昨日、今月初めにまずウィルチェアーラグビーの日本代表のほうの強化合宿が行われまして、あづま総合体育館のほうで行われてございます。あと、5月には楽天のほうと提携しましたボールパークピクニックというもの、こちら年4回、今後開催していくことと考えてございます。5月の9日に楽天がヨーク開成山スタジアム、郡山で、そちらで開催するのを皮切りに、6月のソフトボールの日米対抗戦、こちらでも同じようにボールパークピクニックということで、幼児向けの野球教室のほうを開催してまいります。あとは、7月に福島市内で復興ふくしま推進会議を開催します。あと、東京都と連携しまして、7月の31日に青森から東京まで走ります1,000キロ縦断リレー、こちら毎年行われておりますが、7月31日に新地から入りまして、福島を通過して、郡山からいわきに抜けて、また茨城に戻ると、行くと、そちらが7月31日から8月4日、福島県内を走ります。あと、現在調整中ではあるので、まだ時期が決まっていないのですが、女子車椅子のバスケットの日本代表の合宿が予定されています。あと、済みません。失礼しました。先ほど日米対抗戦の話、6月の話をさせていただきましたが、6月23日に対抗戦が行われまして、24日から27日まで、同じあづま球場のほうで日本代表の合宿が行われます。あと、さらにはオリンピックデー・フェスタということで、JOCが被災3県において、オリンピックと子供たちとの交流を図るイベントがございます。こちら、ことしは県内で5カ所

開催いただきまして、福島市においては11月に予定してございます。さらには、11月30日から12月2日、国体記念体育館におきまして日本ボッチャ選手権大会が行われます。こちらにおいては、民間の、例えば今現在NECさんとかもボッチャの競技についていろいろ知ってもらいたいということで、福島市さんと協力をして、そういった競技についての理解だとか、共生社会についての理解に関する活動をしたいということを今申し入れを受けておりますので、今後そういった民間との連携による機運醸成も図っていかれるのかなというふうに考えてございます。あと、500日前イベントの時期が今年度の年度末、3月に迎えます。ちょっと季節的に競技をするのは厳しいかもしれないので、翌年度に回るかもしれませんが、それについては当然あづま球場を使ったイベントとしたいと考えておりますので、あくまでこれ福島市での開催なので、市役所と連携をとりながらこちらの開催については検討していきたいと考えています。平成30年度に関しましては以上になります。

(小松良行委員) さまざまな、例えば本市において、東京オリンピック・パラリンピックのPRイベントを行ってみたいと。その際には多分参画プログラムというのができておって、お祭りを企画するとかといった場合に、そういったもので、当然オリンピックのマークは使えないですが、参画プログラムの専用の何かがあって、市や、あるいは各種団体などが申し込みをすれば、そういったものに登録をしてというようなことがあるやに聞いたのですけれども、こういったものに対する県としての周知、あるいは先ほど来からなかなか報道や、そうした情報ツールに載せるのにいろいろ苦慮する側面があるのですが、これらというのは活用できないものか、また県とのかかわりについてちょっと教えていただけないかと。

(鈴木 淳参考人) 小松委員のおっしゃられました参画プログラムにつきましては、県で開催しております市町村担当者連絡会議等、そういった場で周知をさせていただいておりますのと、あとホームページにおいても周知させていただいております。ただ、まだ皆さんからの応募が多数というふうなところまでいってございませんので、引き続き周知に努めてまいりたいとは思いますが、例えばお祭り等を参画プログラムに登録したいという場合は、直接組織委員会さんのほうとやっていただくようになります。ただ、うちのほうでアドバイスさせていただきますし、プログラムに該当しそうな行事、イベントがあった際には、うちのほうで目にしたり、市町村と話し合っている間に出てきたりしたときには、積極的にそのプログラムについて周知させていただきながら、登録を進めているところでございます。

(小松良行委員) 一番は、先ほど来から、今はPRのキャンペーンの時期であろうというふうにも思っているのですけれども、OBSといいますか、いわゆるホストブロードキャスターといいますか、これはもう決まっているのか、またそこへ際して、先ほど来からいろいろ製品に対して出したりするには大きな規制があるようですけれども、特に福島の文化とか農産品などといったものをオリンピックに関連して報道ベースに載せていくとかというふうな取り組みというのは、ご検討されてはいるのでしょうか。

(鈴木 淳参考人) OBSにつきましては、最大のオリンピックの収入源というふうになってございますので、権利関係は確定していると聞いてございます。あとは、OBS側でその放映権について各国の放送業界のほうと調整をしながら、配信について放映権を売っていくとかというようなことをされるのだとは思いますが、ちょっとその辺について、我々の権限の及ぶところではないので。あと、それが一番地元においてかかわってくるものが、ことしの平昌オリンピックの際に東京都が郡山で開催しましたライブサイト、先ほど小松委員がおっしゃられた駅前で野球選手がといったものがそのライブサイトなのですが、このライブサイトにつきましても権利を買った上でやるようになりますので、非常に縛りのあるもので、なかなか自治体のうまみというものがちょっと見出せない現状にあります。ここは、ちょっと組織委員会等と調整しながら、どうやったら自治体で開催するメリットを見出していくかといったところを調整していけたらなというふうに思っております。

(小松良行委員) やはり福島の魅力である温泉地であったりとか、あとは山岳に囲まれた吾妻連峰のトレッキング温泉とか、招待した選手やさまざまな交流、スポーツ交流を求めてくる人たちにこうした文化に触れてもらいたいという思いがあります。何かの報道で見たのですけれども、女子のスポーツ選手などに、例えば飯坂温泉で、夏場ですから、浴衣などを着てもらって散策をしてもらい、あるいは堀切邸で湯茶を接待する、そうしたほのぼのとしたおもてなしの心を、当然本市としてもそうした受け入れ体制を整えた上でになるのですが、それらを発信していく力というのですか、これは福島市だけでは非常に難しい。先ほど来から、いかに報道ベースや国際的なツールの情報に載せられるかということが今後大事になってくるのかな。済みません。競技のほうから離れてしまって申しわけないのですが、その点の部分についての相互の連携と、さらにそうした報道や情報発信に対する手だてといたしますか、福島市と県と連携してできる方策を今後早急に検討していただきたいというふうに要望するところなのですが、その点について何か回答があればと思うのですけれども。

(鈴木 淳参考人) 先ほど金子のほうからも説明がありましたが、県庁の観光部門のほうともワーキンググループでこのことについて連携をしておりますし、広報の部門についてもワーキンググループの中で一緒になってやっていくこととしております。市役所さんのほうとも、今回のソフトボールに関しましても、同じく一緒になって広報しておるところでございますので、そういったところについて、一つ一つ別々にやるのではなくて、一緒になって、同じコンセプトで、していけたらなというふうに考えてございます。

あと、組織委員会のほうからも、今回復興五輪ということで、東京で開催している間に、東京に、発信するもの、東北、被災地を発信するところを設けたい、拠点も設けたいと。その拠点に寄っていただいた方には、例えば福島の旅行先だとか、あと福島、宮城、岩手を縦断するような旅行プランだとか、そういったものがつくれないかといったところを一緒になって考えていきたいと思いますということも言っていますので、そういったコンテンツが必要になった際には各市町村さんと連携しながら、うちはこんなものがあります、ではこういったルートはどうでしょうかといったことを考えてい

ければなというふうに考えています。

(小松良行委員) 本当に連携だと思っております。どうかいろいろと今後ともお世話になりたいと思
います。

以上です。

(根本雅昭委員) きょうは、ご丁寧にご説明ありがとうございました。

大きく分けて3点お伺いしたいのですけれども、まず福島市内でも現在学校教育でオリンピックの
機運醸成が行われているところでありますけれども、福島市以外の市町村で何か先進的な取り組みが
あれば教えていただきたいのと、追加で福島市へ、特に学校教育で期待するところがあれば、その2
つ、まず教えていただきたいと思います。

(鈴木 淳参考人) 根本委員のまず最初の1番目の質問ですが、福島市さん、オリパラ教育、ことし10校
参加いただきまして、共生社会から、おもてなしから、幅広く学んでいただいております。本年度に
つきましては、福島市さんに加えて郡山市、いわき市、会津若松市といったホストタウンに登録され
ている4市さんでオリパラ教育に取り組んでいただくこととしております。

参考になる取り組みについてでございますが、飯舘村がことしの4月に村に戻りまして、今までお
世話になった校舎に対しての感謝の気持ちを込めたポスター制作、子供たちの発信力を高めようとい
うポスター制作について、4回ぐらいのプログラムで講師をお招きして、自分たちの表現力だとか、
伝え方だとか、そういったものを学んでいるような事例が福島市さん以外ではございます。

あと、今後のオリパラ教育に期待するところでございますが、福島市の方々は余りご存じないの
ですが、障害をお持ちの方々から見ると、福島市というのは非常に過ごしやすいというか、理解のある
市なのだそうです。宿泊地でもしかり、あと体育館のつくりだとかもそのように伺ってございます。
そういったところを子供のうちから学んでいただけるのがいいのだな、共生社会について、非常に理
解のある市だというのを自分たちで理解して、それを誇りに思って、もっといろいろ発信していただ
けるような、そういった取り組みだとかを期待するのと、あと実際2020年、2年後に迫っておるの
ですが、間違いなく外国人の方々が多くいらっしゃいますので、子供たちが進んで英語等で、山岸委員
おっしゃっておられましたが、英語とコミュニケーションを身につけていただいて、おもてなしの気
持ちで率先してコミュニケーションをとっていただけるような、そういった教育がいただけると、運
営側としても、道に迷う外国人が少なくて、みんな喜んで帰っていただけるような、そういった福島
県での開催にしていければいいなというふうに思っておりますので、少しでもそういった気持ちをお
持ちになるお子さんがふえてくるといいなというふうに期待しております。

(根本雅昭委員) ありがとうございます。福島市、10校ということですがけれども、これがどんどんふ
えていくように私たちも頑張っていきたいと思うところであります。

済みません。あと2点よろしいですか。簡単になのですけれども、今オリンピックのナンバープレ
ートを交付していると思うのですけれども、これ、ちなみに福島県の、県さんの車でついている車と

というのはあるのですか。交付するのにお金もかかるものだと思いますが、参考に教えていただければと思うのですけれども、情報あれば。

(鈴木 淳参考人) 多分、今、根本委員のおただしのものは、県庁の公用車ということですね。

(根本雅昭委員) 公用車、そうです。

(鈴木 淳参考人) 管理する側とちょっと調整させていただいたのですが、予算がということで、今年度の実施は見送りとなっております。一台も今のところ交付しているものはございません。

(根本雅昭委員) ありがとうございます。最近軽自動車も白いナンバープレートで、オリンピックのマークの入ったものを見かけるようになりましたので、特に黄色ナンバーのはずの車が白だと結構目立って、福島市内でも目立っていますので、ああいうのもいい取り組みかなというふうに思いますので、ぜひよろしく願いできればと思います。

最後に、1点だけなのですが、情報セキュリティー関係で、オリンピック開催国はサイバー攻撃が若干ふえる、若干というか、大幅にですか、ふえるということを伺っているところですので、その取り組みが何かあれば、お伺いしたいと思います。

(鈴木 淳参考人) 情報セキュリティーに関しましては、内閣官房の仕切りで、この4月以降、実際動き出すこととなります。オリンピックに関しまして、サービスを提供する事業者、例えばあづま球場ですと、電源を入れている東北電力であったりとか、福島市さんですと水道であったり、そういったサービスを提供する事業者に今後声かけをさせていただきながら、サイバーセキュリティーに関しまして、連携をとって強化していくような動きとなっていく予定でございます。まだ組織等は具体的には立ち上がってございません。

(根本雅昭委員) ありがとうございます。内閣官房さん等ということでありましたけれども、経済産業省の所管の国家試験で、IPAが今やっているのですけれども、情報処理安全確保支援士というのが昨年度から始まりまして、これがなかなか浸透していないということを伺ったのですけれども、多分国内の情報セキュリティー関係の国家試験の中では一番難易度の高いものだと認識しているわけなのですが、なかなか取って登録するのに年間2万円かかって、3年に1度、講習に8万円取られてということで、受けた方が、そういうお金をかけているにもかかわらず、余りメリットがないという声が結構ネット上にありますので、そういう方もせっかく取られた難関資格ですので、活用いただければなという要望ですけれども、そういうことも含めて、これからも市とも情報交換しながら安全対策、情報セキュリティーに限らず進めていただければなというふうに思います。

そのほか、例えば情報セキュリティー以外でも市への要望があれば、何か教えていただけたらと思うのですけれども、何かございますか。ここにある……福島市への期待といいますか、要望ですね。こういう面で連携していきたいですとか、安全確保の面で。

(鈴木 淳参考人) 今現在オリンピック組織委員会との調整に関しましては、常に福島市さんにもご出席いただきながら進めてございます。おかげさまで輸送等につきましても、ほかの、東京都以外の

開催地の中で一番最初のルート発表に結びつけたということもございます。あと、今後につきましては、例えば市さんのほうでもこれは担っていただきます消防、救急であったりだとか、あとごみ処理であったりだとか、そういったところで、より負担の大きな事柄について担っていただくことと、調整いただくこととなりますので、そちらについても引き続き連携しながら取り組んでまいりたいというふうに考えてございます。

(二階堂武文委員) 先ほどのやりとりでちょっとさかのぼるのですが、聖火リレーのときに、時期をずらしてというような文言がおっしゃられましたが、7月、8月が開催、想定されることかと思いますが、春のシーズン、特に5月あたりですと、結構やっぱりスポーツのシーズンということで、地区とか地域とか、運動会であったり、いろんな競技があって、オリンピックが間近ということで、多少の、ネーミング的に、何とかリレーとか、聖火リレーとか何かを含めて、やっぱりつきたくなる気持ちというのはすごく地区ごとにあるのかなというのはあるので、その場合、時期をずらしてという部分が、7月からやはり二月前ぐらいだったらアウトだねとか、ちょっと危険水域だから、やめたほうがいいねとか、その辺の部分というのも今後の話し合いの中で協議していただいて、お示し、もしいただければ、ちょっと地域の皆さんなんかもすごくわかりやすいのかと思うのですが、その辺っていかがなものですか。

(金子市夫参考人) まさしくそのとおりで、私もあやかりたいというほうの希望を持っている次第でございます。まず、聖火リレーが何日にどこから始まるのかで、福島県を通るときといいますか、聖火リレーの時期がちょっと変わってくるといいますか、ありますので、114日の前なので、3月ですか。まさしくやっているところ、途中ということで、何かないかなとは私も思うのですけれども。

(鈴木 淳参考人) リレーに関しまして、情報を整理いたしますと、全自治体を回る、何もなければ2日間、被災地の被災3県と、あと会場を複数持つ県について3日間、合わせまして114日になります。それを単純に計算しますと、3月の中ごろにスタートというような形になろうかと思いますが、先ほど時期をずらしてと申しましたのは、福島県で走っているときにまさに福島県で聖火リレーをやっていると、それは本当に誤解を招くので、これは全くアウトだと思います。ただ、例えば沖縄から始まったときに福島でやるのってどうなのですか、ただ、聖火リレーという言葉は使いません、例えば市長さんがたすきリレーとかとおっしゃったので、というのをやりますとかというのは、今後組織委員会のほうには調整可能だと思います。確認はできると思いますが、そういうのが認められるかどうかというのは、一緒に話し合いながら探っていくしかないかな。現在福島県内でそういったリレーを行っているところは、いわき市が広野、檜葉と今後連携してやろうかなというふうな話を伺っております。いわき市が昨年独自に行われたのは、トーチリレーという言い方をしております。トーチリレーは、ひっかかっていないようで、使って可能だそうです。

(二階堂武文委員) あと1つなのですが、県産水素による再エネ推進ということで、一言8ページで触れられていましたが、この辺というのは燃料電池のバスであったり、乗用車であったり、トヨタの

何でしたか、ミライではない、ありましたが、結構予約しても納車まで随分日数がかかるとかってありましたけれども、具体的な輸送に燃料電池のバスを使うとか何かって、そういったのというのはもう煮詰まりつつあるのでしょうか。

(鈴木 淳参考人) 県産水素による再エネの推進、大会期間中の活用についてでございますが、東京都さんが福島県産の水素を活用して輸送に使いたいというふうに考えてございまして、構想としましては、観客輸送等のバスにそういった水素エネルギーを動力にしたバスを導入するというようなことは考えていらっしゃるという計画は聞いてございます。ただ、具体的なアクションについてはまだ具体的には聞いてございませんので、その辺については今後確認したい。

(二階堂武文委員) ということは、福島県としては特別考えてはいらっしゃるということになりますか。

(鈴木 淳参考人) 市内での活用については、現在輸送について検討中ではございますが、まだ具体的な輸送方法だとかについて議論になってございませんので、今後の議論になろうかなと思います。

(二階堂武文委員) それでは、最後になりますが、パーク・アンド・バスライドの実施の可能性については検討中と先ほどご説明いただきました。かつまた関係者の輸送ルート、観客シャトルバスのルートも明確になったということでもいただきましたが、私も、大きい大会あるときに、日本は車社会なので、何だかんだ言いながらマイカーでという対応を、やっぱりすごくそこが重要になってくると伺っておりますが、そのときに、ちょっと要望っぽくなるのですが、私、これからの二、三年、オリンピックちょっと先までのタイムスケジュールの中で、かつまた今回の明らかになった2つの輸送ルート、インターチェンジ等の絡みの中で、今大笹生インターが中央道絡みでできまして、結構利用者数が多いということで新聞報道等ありますが、大笹生インターとその周辺に福島市としても、オリンピック終わった後ですか、道の駅のオープン、また周辺の工業団地も早ければ今年度末ぐらいから2区画の分譲開始ですか、ということで、残り4区画があるわけですか。全部で6区画でしたか。あの周辺って、そういった意味では、今後のパーク・アンド・バスライドの実施を考えた場合に、いろいろ工業団地の造成とか、いろんな動きがあって、用地も市のほうで取得しているということを考えてときに、結構あそこを使ってフルーツラインを一気にあづま球場のほうまで横に、中心部を通らないで回していくとか、これは十二分に有望なのかなと思っておったのですが、何でこんなこと、要望を申し上げるかといいますと、実は西地区では今回のやはり地域のおもてなしということで、皆さん、公民館とか学習センターを中心に、既に、おもてなしを充実させようということで、球根を地域の皆さんから集めて栽培していたり、オリンピックに合わせて花でお迎えしようとかって皆さんいろんなお考えを既にスタートさせていたりもするものですから、微温湯線であり、115号バイパスであり、さらにまたパーク・アンド・バスライド構想の中で、ぐるっとフルーツラインをうまく、この季節ですと、もうモモがなり出している季節でもあるものですから、そこをちょっとバスがまた通るなんてなれば、その周辺にやはりちょっと花を植えてみようとか、周辺地区、大笹生、庭塚、庭坂、水保地区とか、

皆さんまた一生懸命になるのかなど。また、果樹栽培農家なんかも、また楽しみが1つ、おもてなしの楽しみがふえるかななんてちょっと思ったものですから、要望を込めて、一言意見を述べさせていただきます。よろしくお願いします。

(金子市夫参考人) パーク・アンド・ライドの基本的な考え方について、ちょっとご説明しておいたほうがよいかと思います。まず、中心はやっぱり福島駅にまず観客の方は来ていただく。そこまでのルートのために駐車場をどこに置くか、これがまさしく検討中で、先ほど今おっしゃられました西部工業団地の跡地あたりに駐車場をちょっとお借りして、そこから福島駅に来ていただいて、福島駅から大通りですか、あそこを通って行くみたいな、というようなことが基本でございます。したがって、例えばフルーツラインに花を飾っていただく方は、そこを通ってパーク・アンド・ライドの駐車場のほうに来ていただくということでも大変有意義な取り組みかなというふうに私は考えておりますので、ひとつよろしくお願いできればと思います。ですから、バス自体がそこを通ってくれということに対しては、ちょっとなかなか、我々、ちょっとなかなか難しいところございまして、やっぱり短時間で、駅を中心ということ、他県の都道府県さんからも来られる、県内の会津だ、いわきだ、浜通りだ、中通りだ、白河だ、みんな来るのはやっぱり福島駅、こちらを中心にバスであづま球場まで動かすというようなことで考えておりますので、そこら辺はちょっとご理解いただければと思います。

(二階堂武文委員) 今のお話は、観客シャトルバスということになりますね。わかりました。

最後に、ちなみに意外と盲点なのですが、私、庭坂に住んでいまして、JRの庭坂駅というのがあります。福島駅から駅が笹木野駅と庭坂駅しかないものですから、8分で福島駅から庭坂駅まで着くのです。ただ、今、朝夕の通勤帯中心ですので、日中の本数って限られていますから、そこがネックなのですけれども、PRをしてしまいました。失礼しました。

(村山国子委員) いただいた資料の2ページの基本目標で、前に進むふくしまの「魅力」発信というところで、(1)で復興の状況と魅力の発信というのがあります。風評払拭に向けたという言葉はあったのですが、復興状況ということで、原発事故についての発信というのは何か考えられていらっしゃるのですか。

(金子市夫参考人) 復興の加速化の一番上に国内外のイベント等やアーカイブ拠点施設等を活用した本県の魅力発信ということで、我々文化スポーツ局におきまして、生涯学習課が所管しておりますが、双葉町の再生拠点のほうに、先駆けて、オリンピックの開催前あたりを目標に今やっておりますけれども、アーカイブ拠点施設をつくりまして、そちらのほうにもお回りいただいて、今の復興の実態、今福島はどういうふうになっているか、そういったものをお見せする施設をつくっております。そういったことで、全体的に、まさしく中通りの地震の震度と申しますか、震度はどのくらいでとかでひどかったというようなのもございますので、実際にはこの福島市内を見ていただくことで復興を実感していただくことと、原発が今現在、2020年の7月にどんなふうになっているかということもあわせて

見ていただくような動きをやっていきたいと考えております。

(高木克尚委員長) あと1つ、2つ程度しか時間がありませんので。

(村山国子委員) 原発事故の状況がどうなっているかというのは、どういうふうな具体的に。

(金子市夫参考人) 5,000平米程度の2階建ての施設を予定しております、その前面には国が今やっております復興祈念公園と連動するようなものでございまして、3Dといいますか、例えばいわゆる原発事故で被害を受けた証拠、証拠といいますか、アーカイブですから、時点でどんな状況にあったか、それで原発が起こる前にはどんな状況であったか、浜通りのほうは、それでその後我々はどういった避難をしてきたか、それでどうやって立ち直ってきて、現在福島はどうなっているかというようなものをストーリー別に分けて、展示物を中心に、あとはVTRといいますか、そういったものを中心に発信していくような施設を今検討中でございます。

(小松良行委員) 先ほど水素技術を活用した車両の導入等のお話が二階堂委員からありましたけれども、浜通り地区のイノベーション・コースト、それから福島にそうした水素エネルギーの基地ができるということであれば、思い切ってこの会場、球場の改修には国の予算もたくさん使われるということなのですが、思い切って水素エネルギーでこの球場周辺の電力が賄えているのだとか、何かそうしたクリーンエネルギーに対してのイメージ、印象が強まるような取り組みというのは検討されないのでしょうか。

(金子市夫参考人) 今水素のほうの中心は、浪江の棚塩地区のところに国のNEDOといいますか、新エネルギーのほうの財団があるのですけれども、そちらとタッグを組みましてやっていくという方針でございまして、あくまでもあづまは、またちょっと反対の意見もございまして、現状を、華美にやっているのが復興なのかなんていう意見もちょっといただくものですから、こちらはあくまでも現状を、いわゆる昭和のときにつくった建物で、和式トイレとか、ロッカールームが狭いとか、国体基準になっていないとかいうところもございまして、それを今の平成30年の、平成32年になりますか、そちらのレベルに合わせつつということを中心にちょっと改修をしていくと。まさしく我々も人工芝まで要求されるとは思わなかったのですけれども、それもメンテを比べれば、天然芝を張ると大体コストが一緒になるということで、県議会等にも説明をしまして、何とか了解していただいたところでございまして、現状を考えた改修ということでございまして、ばんと打ち上げるところまではちょっといかないというような実情でございます。申しわけありません。

(小松良行委員) 要望ですけれども、ぜひそうしたことで、浜通りのそうした産業との連携といいますか、それを実証的に地域のクリーンなエネルギーとかというふうなことは福島県全体にとっても非常にいいPRになるのではないのかなと思ひまして、ぜひそうした取り組みも検討していただきたいということで要望しまして、質問終わります。

(高木克尚委員長) 以上で参考人のご意見に関する質疑は終了させていただきます。

金子様、鈴木様、お二人におかれましては、大変お忙しい中、本日の委員会にご出席をいただき、

貴重なご意見をお聞かせいただきましたことに対し、委員会を代表して心より感謝を申し上げます。当特別委員会として、本日のご意見を十分生かしてまいりたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。

以上で参考人招致を終了いたします。

参考人退席のため、委員会を暫時休憩いたします。

午前11時28分 休 憩

午前11時30分 再 開

(高木克尚委員長) 委員会を再開いたします。

ただいま貴重なご意見をいただきました。参考人招致に対する意見の開陳を議題といたします。

各委員から意見があればお述べください。

(山岸 清委員) 県のほうからは伺ったけれども、市のほうの対応も聞いておかなくていいのかなというのを感じたのですが。

【「聞いたじゃないですか」と呼ぶ者あり】

(山岸 清委員) 忘れてしまったのだ。

(鈴木正実委員) 私、体制を中心にお聞きしまして、というのは福島市の場合、やっぱり兼務が多くて、余りにも組織として脆弱な組織ではないかな。やっぱり今県の方々おっしゃったように、それぞれ関連する部局をきちっと集めておいて、そこが本務になって、兼務は本当に兼務で、そっちを兼務にするような新たな体制で、来年プレになる、さらには本番だとなれば、もう今現時点、この委員会からの報告事項の中では体制強化をぜひやって、市民へのアピール、PR、それも同じ。500日前のイベントなんていうのもいろいろ県のほうでもやっていますが、開催市である福島市はそれを一生懸命やらなくてはならない。1年前イベントとか、やっていかなければならない時期で、やはり体制を強化して、PR並びに大会運営に携わっていける福島市のきちんとした姿を市民にお示しすべきではないかというふうに思います。

(高木克尚委員長) 急ぐよね。

(鈴木正実委員) 急ぐと思います。

(山岸 清委員) 盛り上がりないものな。

(高木克尚委員長) 今後、行政視察の前で、やはり最終的な提言を待つことなく早急に当局にお伝えをする機会を正副委員長でちょっと協議をさせていただいて、皆さんにお示ししたいと思っておりますので、よろしいですか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員) どんどんと、福島からこういうことをしたいのだとか、こういうPRのために何とか県も協力してとかというようなことで、どんどん自分たちから県も絡めてやっていこうというよう

なことで、意見交換、一緒にやりましょうといった機会をどんどんふやしていかないと、何かぼやっとしたので終わってしまうような気がしてならない、非常に鈴木委員ともまた別な意味でも焦りを感じたところです。今後、これに限らず、またいろいろな調査研究などしながら、これスポーツ文化しかないのですけれども、やはり例えば観光振興とか、さまざまそうした連携ということがあるのだと思うのですが、その点で、もっとさらに深く参考人招致の機会があればいいなと思っているのですけれども、県ではあそこ、スポーツ局しかないのですか。推進室と、要するにここではなくて、推進室というのですか。

(高木克尚委員長) 冒頭、先ほど次長がおっしゃいましたけれども、次長が座長となってワーキンググループを月2回ほどやっているという、大変福島市は不足している観点なのかなと、こんな思いは私からも感じ取りました。

(村山国子委員) やっぱり何か県と市の連携がまだ密でないのかなという気がするので、積極的に市も働きかけていって、聖火のことなんかは決まったばかりで、まだわかっていないというのがあるのかもしれないのですけれども、もうそれがわかっただらば、次から次へといろんな企画をしていくような、そういう積極性が必要なのかなというふうに思いました。

(高木克尚委員長) そのためにはやっぱり、鈴木委員がおっしゃったように、担当すべき職員体制が現在不足しているのではないかとという不安は、皆さん共通なのですね。

(根本雅昭委員) 先ほど私、教育関係を伺ったのですけれども、先日、先ほどのご説明のように、当局説明、この委員会でもありましたけれども、ほかの例えば教育部ですとか、サイバー攻撃で先ほど水道局、ちゃんとしたほうがいいのではないかとというご説明ありましたけれども、そういう関連する部署の説明もちょっとお伺いしたいなというのは思いました。

あとは、やはりいろいろとおくれているという感じがした次第なのですけれども、できることは全てやるようなつもりで、例えばナンバープレートを公用車、オリンピックのナンバーに交換するとか、そういう小さなことからでも何かいろいろとやっていけたら。そういういろいろこれからの所管事務調査も含めて、調べていきたいなというふうに思います。

(高木克尚委員長) 今根本委員からありましたように、セキュリティーに関しては、市単独で何か規制をかけるとか、行動を起こすということは多分困難なのかなと思うのですが、ただ福島市としてどの程度捉まえているのかというのは今後聞いていかなければならないかなとは思っています。

(渡辺敏彦委員) 県が福島市に望むものは、競技会場の救急車配備と救急搬送と、あとごみ処理という話、さっきしていたのだけれども、役割について聞いたのは、都市ボランティアだと自治体独自の取り組みとかというのが入っているのだけれども、県のほうは具体的にいろいろ話ししているのだけれども、県が福島市でやられてしまうと市でやることないでしょうみたいなことでいいのかなと思うのね。

(高木克尚委員長) すみ分けね。

(渡辺敏彦委員) だから、それ福島市として独自に、逆に県が計画する前にできる取り組み、そういったものをもっと出していかないと、県がやるから、福島市でやるから、いいでしょうみたいに終わってしまうのではないかと思うのね。ごみと救急だけの対応でいけばいいのかな。だから、さっき中身の連携あったのだけれども、結局農商工観光そっくり組んでやっていかないと、総合的な復興なんていうのは多分出てこないのだ、福島市の場合。だから、その辺、体制整備も必要なのだけれども、一生懸命県にも上げてくれ、やってくれと市のほうに言ってやらないと、本当に県でやるのが福島市で開催すると隠れてしまって、福島市が出てこないのではないかなと思うのね。だから、その辺、しっかり頑張ってもらおうように市のほうに正副委員長で言ってください。

(高木克尚委員長) 県の推進会議もあれば、市の推進会議もあるのだよね。そこがどう連携するのかというのが全然想像もつかない。県の推進会議が方針を出さないと、市の推進会議も具体的に入っていけないのかとか、その辺がちよっとわからない。

(渡辺敏彦委員) 独自にできる部分というのがあるのだから。

(高木克尚委員長) 例えば渡辺委員からありましたように、市の推進会議、連携すべき団体は推進会議が一番大きいですから、そこに対するやはり今後の展開についてお尋ねをすると。そういう情報は持たなければならないね。

(小松良行委員) ここで言うべきことかわからないのですが、さまざまこれ植樹祭も、いろいろ、議会日程って1日開会とか、かちっとはまってしまって、いろんなものに議会日程とぶつかったりとかということ、それも、こっちサイドの問題ですけども、柔軟にできないと、何かやばいことになったりして……

(高木克尚委員長) 具体的にどんな。

(小松良行委員) 例えば議会として参加できなくなるようなことなんていうのが、今後、日程として、議会としても参加したほうがいいのかないかなんていうようなときに、何かそういうことも心配しなければならないとかないのですか。

(高木克尚委員長) これは議長検討で。

(小松良行委員) 柔軟に日程が。

(高木克尚委員長) それは議会全体としての意味と……

(小松良行委員) 市も。

(高木克尚委員長) 特別委員会としての姿勢とかも含めてという。

(小松良行委員) ここで言うかどうか、今だから非常に悩んだのはそういうことなのですけども、何かそんな心配はしなくてもいいのだったらいいのですけれども。出てきたらなのかね。

(高木克尚委員長) 個人的な考えを述べれば、どこまで突き詰めても、オリンピック・パラリンピックの行事予定よりは公務が優先すべきだということが覆らないと思うのです。事前に調整が可能なかどうかと、こういう意味ですよ。

(小松良行委員) 必ず6月議会なら6月1日開会ということ、条例で決まってしまうのだよね。それでいけば、重要な行事が重なってきましてしまったりした場合、1日ずらして開会するとかというようなことなんていうのは柔軟に考えられるのかななんて。今の状況では、多分できないのだと思うけれども。

(高木克尚委員長) オリンピックに関する課題のみならず、今後、将来的に想定を、そういったケースが想定されたときに議会の開会日というものはどうあるべきかということは、今すぐ諮問できるものでもないし、ただ事オリンピックに関して言えば、50年、100年に1回の出来事でもある、そんな時期に入ったときに、調整しませんかと、こういう各会派の調整が図られれば、議題として取り上げていただける可能性はあるとは思いますが、現時点ではちょっと。

(小松良行委員) そうですね。先走った失態でした。

(沢井和宏委員) きょう説明を受けた中で、いろいろ関連した行事が随分出されてきたのですが、私も余り注意深く見ていないのかもしれないのですが、やっぱりコマーシャルがされていないのではないかなという気がするのです。例えばきょうのかなり今年度の行事についても関連したこういうのが出てきますよというのをやっぱり市としても、ある程度、市で開催されるものについてはもう少しPRしていてもいいのかな。これからますますいろんな関連行事があるのに、対応するところにだけアクションをしているのではなくて、やっぱりある程度広く知らせる、ホームページあたり見ればわかるのかもしれないのですが、何かもう少し……

【「見ないと思う」と呼ぶ者あり】

(沢井和宏委員) 見ないですよ。だから、もう少し目に触れるようなPRの仕方をしていけば、もうちょっと醸成が図られるのかななんて感じしました。

(高木克尚委員長) 日米野球なんてきょう俺初めて聞いたよ。

(小野京子委員) 日米ソフトボール。6月23日だってね、もう。

(高木克尚委員長) これが随分前の時期に決まっていたのに市の推進室から何も我々に情報提供がなかったということであれば、ちょっとおもしろくなかったのですが、二、三日前の話だとすれば、やむを得ないかな。

(鈴木正実委員) 今の件で、まさに私、何回か議会でも聞いているのですが、PRがとにかく下手なのです。ここでオリンピック展をやったときも、ただやっただけで、何もPRになっていない。駅頭でソフトボール、野球の開催地だという垂れ幕があるとか、駅の中にそういうのがあるとか、もう既に動いていなくてはならないことが全然できていない。特に去年、1,000日だったときに、これやりましたと言いますが、県でさっき、文化センターで1,000日前イベントということで、いろんな団体が集まって、ふくしまアイデアコンテストという大学連携のをやったのですが、聞きに来ている人がほとんどいないのです。私は行きましたけれども、かなり福大あるいは農業高校とか、いろんなところで自分たちが栽培しているものをアーカイブとしてこれから先もきちっと生産してい

こうとか、いろんな話やった、大事だった発表会、コンテストだったと思うのですけれども、こういうのなんかも全然うまくPRされていない。500日前のイベントに関してももう既に今ぐらいから準備を重ねて、PRしていかなくてはならない、そのPRの手法、これをやっぱりもうちょっと早急に取り組まないと、さっき言ったとおり、組織がしっかりした体制ができて初めてできていくものが、もう手をつけていなくてはならないものが余りにも多過ぎるのだと思う。だから、そこら辺を何とかもうちょっときちつ、きちつとやっついていかないとならないのではないかなと思う。

(高木克尚委員長) これも先ほどの組織の強化の話と同じで、非常に緊急を要するものだと思うのです。大体もう本番近くなってPRしてもしょうがないという。だから、一日も早いその体制等、要望に関して、どんな方法で市当局のほうにお伝えできるかどうか、ちょっと検討させてください。今回の所管事務調査の最終形とはもう別、切り離して、緊急的にお寄せしたいと、そんな思いをどんな方法で実現できるか、ちょっと検討させてください。ほかになければ、次の課題もあるのですけれども、よろしいですか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、ご意見をいただき、ありがとうございます。いただいた意見については、今申しあげましたように、正副委員長手元で内容を整理させていただいて、皆様にお知らせをしたいと思います。と思っています。

以上で参考人招致に対する意見開陳についてを終了いたします。

次に、その他を議題といたします。事務局より行政視察の行程等の視察について配付をさせていただいて、内容を説明させていただきます。

【資料配付】

(書記) それでは、来週の行政視察についてご説明させていただきたいと思います。

リーフレット等をお配りしておりますが、こちらの行政視察日程、こちらの日程になりますので、日程についてちょっとご説明させていただきたいと思いますが、初日、4月24日の火曜日、こちら8時14分、福島駅発の新幹線で出発の予定でございますので、8時には福島駅の西口改札前にご集合いただければと思います。新幹線で東京まで移動しまして、一番初めの視察先、江東区になりますが、こちら江東区での視察が10時半から12時までの予定となっております。江東区での視察を終えた後には東京駅に戻りまして、昼食をとった後に、長野にその日のうちに移動という形になりまして、24日は長野に宿泊の予定でございます。25日でございますが、長野市役所、こちらは10時から12時までが視察の予定でございます。視察を終えた後には、長野駅から今度は次の七尾市までその日のうちに移動、七尾市に宿泊をいたします。4月の26日につきましては、七尾市の和倉温泉運動公園、こちらは現地のほうで座学の講義と現地視察を行いまして、こちらは9時半からおおよそ12時までの予定でございます。こちらもちょうど終了後に昼食を挟みまして、福島駅まで戻ってくる予定でございますが、おおよそ戻りが7時8分着の新幹線になりますので、7時過ぎに戻る予定となっております。日程について

は以上のような形になります。

なお、名簿も一応つけさせていただいているかと思いますが、こちら今回参加予定は委員の皆様、それから名簿の番号でいきますと12番、13番、こちらのほうの執行部の担当職員ということで、東京オリンピック・パラリンピックの市の推進室の室長の西坂室長、それから丹治室次長の2名も同行の予定でございます。なお、事務局につきましては、私と書記高橋の2名が同行させていただく予定となっております。

私のほうから以上でございます。

(高木克尚委員長) 大変事務局でご苦労いただきまして、東京都内の視察先、江東区で決定をさせていただき、それに基づく行程、宿泊等々全て整いましたので、改めて皆様にお示しをさせていただきました。

その上で、委員長として、皆様にお願いと確認がございます。各視察先へお土産を事前にお送りしたいと思いますが、ご了承願えますか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) それから、その際のお土産代あるいは視察中の飲食代等々、当日参加者お一人につき1万円をお預かりしたいと思っておりますが、ご了解をいただけますか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、そのようにさせていただきます。

行政視察全体について、以上の内容で行いたいと思いますが、ご質問ある方、お述べください。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) 当日、くれぐれも集合は午前8時、駅西口改札前となりますので、お忘れのないようお願いを申し上げます。

以上で本日の東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

午前11時53分 散 会

東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員長

高木 克尚